

杭州 2022 アジアパラ競技大会選手コメント【10月23日】

◆男子 1500m(T54 クラス)予選

樋口政幸選手(プーマジャパン)

「参加選手が少なかったことが気になったが、その中でもスタートリスト見ると強者しかいなかったのので、どこまで自分がやれるか走ってみるまで分からなかったが、予選通過できてホッとしている。今回、若手選手との交流を持ちたいと思って出場した。明日の決勝もしっかり走りたい」

吉田竜太選手(SUS)

「トラックは走りやすかった。夜の 5000mは、体調整えて走りたいと思います。パリ世界パラの時はガチガチだったけども今回はだいぶ落ち着いて走れたと思う。」

岸澤宏樹選手(日立ソリューションズ)

「1組目の状況が見えていたので、タイム狙いと着順狙いを思っていたが、思った以上に(全体)タイムが上がってくれたので冷静に走れた。着順で決勝に進めると思うので、明日の決勝と 800mも続いて 4 連戦になるので自分のベストタイムを狙っていきたい。メインは 800m。今の現状は悪くないし自分の状態としても上がってきているので、国際舞台でどれだけチャレンジできるかというところをしっかりとやっていきたい。」

◆男子 100m(T12 クラス)予選

石山大輝選手(順天堂大学)

「タイムは良くなかったが、決勝進出できたので良かった。明日はメダル獲得できるようにしっかり走りたい。走り幅跳びと共にメダル獲得目指して頑張ります」

◆女子 200m(T47 クラス)決勝

辻 沙絵選手(日本体育大学)

「400mの刺激になればと思って走ったが……。スタートはうまく出れたが、中間走がうまくリズムを続けられなかった。自己ベスト更新はしたかった。400mでは自己ベスト更新とメダル獲得を狙いたい。」

◆男子 200m (T64 クラス) 決勝

井谷俊介選手 (SMBC 日興証券)

「すごく楽しかった。アジアパラに入る前から早く走りたいなと思っていた。200mは自己ベスト出ていなかったのが今日の結果はメチャクチャうれしい。レースプラン通りに走れば結果は後からついてくるだろうと思った。前半飛ばして、コーナー出口の加速をひとつ我慢して、ストレート入ったところでもう 1 回ギアを上げるくらいの余裕を持ってプラン通りの走りができた。日本で応援してくれる人たちに良い報告ができました」

大島健吾選手 (名古屋学院大学 AC)

「完敗でした。すごく悔しいけども (井谷選手) 彼とこの結果を認めて自分の立ち位置を理解して一步一步パリに向けて頑張りたい。」

◆女子砲丸投 (F20) 決勝

中田裕美選手 (長野パラ陸上競技協会)

「頑張りました。一生懸命練習した結果なので良かった。楽しく投げられました。これからも砲丸投げを一生懸命投げたいと思います。」

堀 玲那選手 (岡山陸上競技協会)

「5 投目まで記録が伸び悩んで、プレッシャーもあったけども色々な人の支えもあったので金メダル目指して頑張ってきて良かったです。国際大会初めてだったのでかなり緊張し、移動のバスなどもしんどかったけども奥松先生に支えてもらって結果出せて良かったです。今日は自分をほめたいと思います。」

◆女子 400m (T37/38) 決勝

高松佑圭選手 (ローソン)

「調子は良かったのですが、自分の走りができなかった。コーナー抜けた辺りからスピード上げようと思ったが出来なかった。追いつけなかった。また、次に向けて作り直したい」

◆女子 100m (T13 クラス) 決勝

佐々木真菜選手 (東邦銀行)

「100m出場は東京パラリンピック以来で少しドキドキしたけどもメインは 400mなので

そこに向けて 100m でどれくらい出せるか、自己ベストを目標に臨みました。走りとしてはあまり力みがなかったところは良かったところ。400m では金メダルはもちろん、自己ベスト更新して世界ランキングをあげていきたい。」

◆女子円盤投(F51/52/53)

鬼谷慶子選手(関東パラ陸上競技協会)

「自己ベストに届かず悔しい気持ちもあるが、大きな舞台で投げれたことに感謝している。自分の力としてはもうちょっと出来たかなと思う。国内では同じ座位投てきの選手が少なく、同じクラスの選手と戦う事が今回、初めてでそれが楽しく、これから自分が成長して戦えるようになりたい。競技アシスタントであり夫の存在が大きかった。この大会をステップアップとして来年の世界パラやパリパラに向けて頑張っていきたい。」

アシスタント 鬼谷健太さん

「本人なりのベストは尽くせていたかなと。この状況で全てのことはできたなと思います。今回、アシスタントとして一緒に行かせていただいて本当に感謝しています。」

◆男子 5000m (T54 クラス) 決勝

樋口政幸選手(プーマジャパン)

「勝負にいったかというところまで及ばずだったかな。強い選手ばかりだったので難易度としては高かった。現状、タイム差無しでゴールできたことは良しとしたいが、パリを目指すならこの超えられない壁を超えないといけないかな。明日の 1500m は、連戦は辛いですが、5000m より良い順位を目指したい」

吉田竜太選手(SUS)

「樋口選手と一緒に国際大会を走れたことは、喜びではあったので結果は仕方ないが楽しかった。海外選手はトップスピードが速い、体の動きも柔らかいので、急にスピードを上げられるとなかなかついていけないが、自分の感触としては悪くないのでまだいけるかなと。そこはプラスに捉えて次に向けて頑張ろうと思います。」